



平成27年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年11月10日 東

上場会社名 株式会社メディアフラッグ 上場取引所  
 コード番号 6067 URL <http://www.mediaflag.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 福井 康夫  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 中園 利宏 (TEL) 03 (5464) 8321  
 四半期報告書提出予定日 平成27年11月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年12月期第3四半期の連結業績 (平成27年1月1日～平成27年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年12月期第3四半期	5,662	16.1	52	△65.7	24	△81.3	△439	—
26年12月期第3四半期	4,875	110.6	153	8.2	128	△9.4	38	△50.1

(注) 包括利益 27年12月期第3四半期 △439百万円(—%) 26年12月期第3四半期 38百万円(△50.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年12月期第3四半期	△96.70	—
26年12月期第3四半期	8.95	8.46

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年12月期第3四半期	5,275	705	13.1
26年12月期	5,567	1,203	21.5

(参考) 自己資本 27年12月期第3四半期 690百万円 26年12月期 1,194百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年12月期	—	0.00	—	3.00	3.00
27年12月期	—	0.00	—	—	—
27年12月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 平成27年12月期の連結業績予想 (平成27年1月1日～平成27年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,780	12.2	94	△71.7	54	△82.0	△400	—	△88.07

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日(平成27年11月10日)公表しました「特別損失の計上及び業績予想の修正並びに配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 一社、除外 一社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	27年12月期3Q	4,641,294株	26年12月期	4,580,994株
② 期末自己株式数	27年12月期3Q	82,006株	26年12月期	30,106株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	27年12月期3Q	4,541,673株	26年12月期3Q	4,339,232株

(注)平成27年12月期第3四半期の1株当たり四半期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に、株式給付信託が保有する当社株式を含めております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、輸出や生産が弱含みましたが、企業収益、雇用情勢、所得環境は改善傾向にあり、個人消費には底堅い動きが見られるなど、全体としては一部に弱さがみられるものの緩やかな回復基調が続きました。

このような経済状況の中、当社グループの主な事業領域である、消費財メーカー等への営業支援の分野及び流通小売等への覆面調査を提供する流通支援の分野では、販売促進のための店舗店頭の改善と強化が重視される傾向が強く見られ、また、効率化や省力化のためのアウトソーシングのニーズも高まりました。さらに海外では、特にアジア地域において日本の流通小売業の持つ店舗店頭の改善と店舗展開のノウハウを求める傾向が強くなっております。

当社グループではこのような事業環境の下、国内では既存顧客からの受注拡大と新規顧客獲得のための提案活動により営業支援事業及び流通支援事業ともに事業規模を拡大し、海外では、インド、インドネシアにおいて流通小売業向けのコンサルティングサービスの受注を拡大させております。また新規事業として事業再生に取り組んでおり、和菓子製造・販売の㈱十勝たちばなの業績改善に尽力しております。

当第3四半期連結累計期間の主な状況としましては、当社単体において営業支援事業、海外向けコンサルティングサービスを含む流通支援事業ともに売上高が拡大いたしました。また、昨年株式を100%取得して子会社化した株式会社impactTVでは原価、販売費等のコスト管理が功を奏し連結損益に貢献しました。

事業再生に取り組んでいる㈱十勝たちばなでは、新規出店及び催事開催の推進により売上を伸ばしましたが、新規出店費用および催事開催費用の増加や、在庫管理及び生産管理の改善が進まず製造部門の効率化が遅れたことにより大幅な赤字となりました。この状況を受けて㈱十勝たちばなでは当第3四半期決算において固定資産の減損による特別損失243,888千円を計上し、また当第3四半期連結決算では㈱十勝たちばなに関するのれんの減損処理による特別損失126,590千円を計上しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は、5,662,605千円（前年同期比16.1%増）、営業利益は52,716千円（前年同期比65.7%減）、経常利益は24,068千円（前年同期比81.3%減）、四半期純損失は439,222千円（前年同期は38,861千円の利益）となりました。

(参考)

(単位：千円)

	売上高	前年同期 増減率	営業利益	前年同期 増減率	経常利益	前年同期 増減率	四半期 純損失	前年同期 増減率
連結業績	5,662,605	+16.1%	52,716	△65.7%	24,068	△81.3%	439,222	—

なお、当社グループの主な企業の当第3四半期連結累計期間における各社単体業績は次の通りであります。

(単位：千円)

会社名	売上高	前年同期 増減率	営業利益	前年同期 増減率	経常利益	前年同期 増減率	四半期 純利益	前年同期 増減率
(株)メディアフラッグ	2,845,967	6.2%	148,011	△25.5%	142,474	△26.4%	△580,417	△615.0%
(株)impactTV	821,297	△4.3%	95,947	188.3%	94,784	186.2%	109,424	143.6%
(株)MEDIAFLAG沖縄	135,318	5.0%	12,169	251.3%	13,889	90.3%	9,476	68.9%
cabic(株)	488,250	7.7%	11,698	1,232.4%	11,704	881.1%	11,224	664.7%
梅地亜福(上海)管理咨询有限公司	15,654	161.5%	242	103.4%	672	109.7%	672	109.7%
(株)MP a n d C	47,385	92.6%	△11,752	46.5%	△11,977	45.9%	△12,237	45.1%
(株)十勝たちばな	1,494,294	6.1%	△132,906	△370.1%	△149,160	△238.3%	△397,185	△736.2%
その他2社	37,640	27.8%	2,471	273.2%	3,222	496.2%	2,924	392.0%

- (注) 1. 株式会社impactTVは平成26年7月1日より当社の連結子会社となっているため、表中の前年同期比は当社が株式を取得する前の同社の業績を含めて算出しております。
2. 株式会社十勝たちばなは平成26年6月1日付で旧株式会社十勝と旧株式会社たちばなが合併した企業であります。表中の前年同期比は旧株式会社十勝の業績と旧株式会社たちばなの前年同期の業績を合算して当該2社間取引を除いた金額を基に算出しております。
3. 利益についての前年同期増減率については、損益の増減分を前期実績値で除して算出しており、損益が改善された場合はプラス表示、損益が悪化した場合はマイナス表示しております。
4. K9株式会社は、平成27年6月2日付で株式会社MP a n d Cへ社名変更しております。

セグメント別の業績は次の通りであります。

営業支援事業におきましては、リアルショップサポートの新規案件の受注や各メーカーが実施するキャンペーンや新商品の発売に合わせた推奨販売サービスを関西エリアで展開するcabic㈱との連携により新規受注が拡大し、また小型デジタルサイネージの開発・販売を行う子会社㈱impactTVとのシナジー効果もあり売上が順調に推移し、売上高は3,029,445千円（前年同期比31.7%増）、セグメント利益は399,224千円（同17.8%増）となりました。

流通支援事業におきましては、交通施設や飲食店チェーン等の大型調査案件の継続受注ならびに、インド等アジア地域における現地流通小売業向けコンサルティングサービスの増額継続と業容拡大した結果、売上高は595,306千円（前年同期比6.0%増）、セグメント利益は251,862千円（同29.0%減）となりました。

ASP事業におきましては、既存顧客からのカスタマイズの受注に加え、占有サーバーの導入などにより、売上高は50,512千円（前年同期比19.7%増）、セグメント利益は35,140千円（同0.4%減）となりました。

ストア事業におきましては、都内で3店舗展開していた「ファミリーマート」を8月に閉店しましたが、利益については、前年第1四半期の沖縄料理店「古都首里」の閉店による費用削減により大幅に回復しました。この結果、売上高は511,905千円（前年同期比10.7%減）、セグメント利益は7,331千円（同84.7%増）となりました。

事業再生に取り組んでいる和菓子製造販売事業におきましては、百貨店や駅ビル等商業施設における催事の積極展開、並びに新店舗展開により売上高はほぼ横ばいで推移する一方で、新規出店による費用増加や、在庫管理や生産管理の改善が進まず製造部門の効率化が遅れたこと等が影響し、売上高は1,494,294千円（前年同期比6.4%増）、セグメント損失は161,195千円（前年同期は53,794千円の損失）となりました。

なお和菓子製造販売事業では、この業績状況を受けて当第3四半期に不採算店舗及び本社工場等の固定資産の減損処理を行い、また平成27年9月より当該事業を営む株式会社十勝たちばなの経営トップを交代して所有不動産売却等の新たな経営合理化及び事業再生への取組を強化し、事業の収益性確保にまい進しております。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比べ291,121千円減少し、5,275,926千円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末と比べ224,260千円増加し、2,776,604千円となりました。これは現金及び預金の増加354,657千円、受取手形及び売掛金の減少246,065千円等によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末と比べ515,382千円減少し、2,499,321千円となりました。これは主に減損損失計上等による減価償却累計額の増加248,887千円、のれんの減少206,092千円等によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末と比べ206,703千円増加し、4,570,539千円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末と比べ108,959千円増加し、2,092,657千円となりました。これは短期借入金の増加176,664千円、1年内返済予定の長期借入金の増加99,462千円等によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末と比べ97,744千円増加し、2,477,881千円となりました。これは長期借入金の増加101,396千円等によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比べ497,825千円減少し、705,387千円となりました。これは主に利益剰余金の減少452,875千円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、平成27年12月期の通期の連結業績予想及び配当予想につきまして、事業再生に取り組んでいる連結子会社の株式会社十勝たちばなの当第3四半期累計期間における業績不振と、これに伴う多額の減損処理の実施を主な要因として当初の連結業績予想及び配当予想の実現が困難となったことから、本日(平成27年11月10日)開催の取締役会において、平成27年2月13日に公表しました連結業績予想及び配当予想を修正する決議をいたしました。

詳細につきましては、本日公表しました「特別損失の計上及び業績予想の修正並びに配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,061,329	1,415,987
受取手形及び売掛金	1,057,021	810,956
商品及び製品	250,433	242,064
仕掛品	29,107	52,757
原材料及び貯蔵品	77,437	53,863
その他	78,929	203,149
貸倒引当金	△1,914	△2,173
流動資産合計	2,552,344	2,776,604
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2,394,795	2,374,359
機械装置及び運搬具	676,461	688,018
土地	1,628,925	1,620,219
その他	613,360	625,547
減価償却累計額	△3,133,617	△3,382,504
有形固定資産合計	2,179,925	1,925,640
無形固定資産		
のれん	464,308	258,215
その他	84,214	72,411
無形固定資産合計	548,522	330,626
投資その他の資産	286,256	243,054
固定資産合計	3,014,703	2,499,321
資産合計	5,567,048	5,275,926
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	150,167	191,587
短期借入金	650,000	826,664
1年内返済予定の長期借入金	536,687	636,149
未払法人税等	100,603	7,624
ポイント引当金	5,751	8,924
その他	540,490	421,707
流動負債合計	1,983,698	2,092,657
固定負債		
長期借入金	2,315,026	2,416,422
資産除去債務	39,647	39,163
その他	25,464	22,295
固定負債合計	2,380,137	2,477,881
負債合計	4,363,835	4,570,539

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	287,603	292,904
資本剰余金	472,933	499,615
利益剰余金	436,002	△16,873
自己株式	△10,054	△90,341
株主資本合計	1,186,484	685,305
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	481	583
為替換算調整勘定	7,278	5,051
その他の包括利益累計額合計	7,759	5,635
新株予約権	—	4,044
少数株主持分	8,968	10,403
純資産合計	1,203,212	705,387
負債純資産合計	5,567,048	5,275,926



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)
売上高	4,875,697	5,662,605
売上原価	2,900,554	3,514,221
売上総利益	1,975,142	2,148,384
販売費及び一般管理費	1,821,658	2,095,668
営業利益	153,484	52,716
営業外収益		
受取利息	834	961
受取配当金	28	24
助成金収入	3,650	1,538
その他	4,135	4,412
営業外収益合計	8,649	6,936
営業外費用		
支払利息	30,464	34,395
その他	3,073	1,188
営業外費用合計	33,538	35,584
経常利益	128,596	24,068
特別利益		
固定資産売却益	1,362	5,944
持分変動利益	-	3,500
特別利益合計	1,362	9,444
特別損失		
固定資産除却損	1,265	4,037
投資有価証券評価損	-	18,894
減損損失	-	370,479
その他	-	7,288
特別損失合計	1,265	400,699
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	128,692	△367,185
法人税、住民税及び事業税	84,969	61,411
法人税等調整額	5,145	9,191
法人税等合計	90,115	70,602
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	38,577	△437,787
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△284	1,434
四半期純利益又は四半期純損失(△)	38,861	△439,222

## 四半期連結包括利益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	38,577	△437,787
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4	102
為替換算調整勘定	△300	△2,226
その他の包括利益合計	△295	△2,124
四半期包括利益	38,281	△439,912
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	38,566	△441,346
少数株主に係る四半期包括利益	△284	1,434

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期累計期間において、「株式給付信託（J-ESOP）」の信託契約に基づき自己株式81,900株の取得を行いました。この取得により自己株式が90,287千円増加し、当第3四半期会計期間末における自己株式は90,341千円となっております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間（自平成26年1月1日 至 平成26年9月30日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	営業支援 事業	流通支援 事業	ASP事業	ストア 事業	和菓子 製造販売 事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	2,297,231	559,271	42,195	572,945	1,404,054	4,875,697	—	4,875,697
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,954	2,186	—	—	—	5,141	△5,141	—
計	2,300,185	561,458	42,195	572,945	1,404,054	4,880,839	△5,141	4,875,697
セグメント利益 又は損失(△)	338,953	354,888	35,284	3,970	△53,794	679,303	△525,818	153,484

(注) 1. セグメント利益の調整額△525,818千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「営業支援事業」セグメントにおいて、株式会社impactTVの株式取得に伴い、当第3四半期連結会計期間より、同社を連結の範囲に含めております。なお、これにより当第3四半期連結累計期間にのれんが331,946千円発生しております。

当第3四半期連結累計期間(自平成27年1月1日至平成27年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	営業支援 事業	流通支援 事業	ASP事業	ストア 事業	和菓子 製造販売 事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	3,022,387	593,816	50,512	511,905	1,483,983	5,662,605	—	5,662,605
セグメント間の内部 売上高又は振替高	7,057	1,490	—	—	10,311	18,859	△18,859	—
計	3,029,445	595,306	50,512	511,905	1,494,294	5,681,464	△18,859	5,662,605
セグメント利益 又は損失(△)	399,224	251,862	35,140	7,331	△161,195	532,363	△479,647	52,716

(注) 1. セグメント利益の調整額△479,647千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「和菓子製造販売事業」セグメントにおいて、370,479千円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

「和菓子製造販売事業」セグメントにおいて、のれんの減損を行ったことにより、のれんの金額が126,590千円減少しております。なお、上記(固定資産に係る重要な減損損失)の中に当のれんの減損も含めて記載しております。